

ミニデイサービス便り

今枝志ようさんありがとう

今枝志ようさんが亡くなりました。

当会が助け合い活動を発足させた時から応援をいただけてきました。電動車椅子でどこにでもお出掛けになっていた彼女には、不可能という言葉がないほどに何事にも意欲的に挑戦されてこられました。

長い間、身体障害者グループ輪友会を引っ張ってこられ、84年間、前を見続け、立ち止まられることはあっても、決して振り返る事のない生き方を全うされた生涯だったと思われまます。

きっと内なる葛藤がなかったわけではないと思われまます。いつも笑顔で私達が励まされてきました。そして、教わってきました。

お部屋の中では、短い松葉杖を使用、耳も1対1なら話が出るが、全体のお話は雑音にしか聞こえないと言っておられました。お体の不自由さとは関係なく、とても器用な方で、和裁、編み物、お習字俳句何でもされる方でした。そんな方に、私達はとんでもない思い込みをしたことを覚えています。

当会のミニデイサービスにおいて下さる様になって2回目の頃、仲間が弾くピアノをじっと見ておられた。スタッフは、手がテーブルの上に上がりづらく決して自由ではないことにこだわって、今枝さんが弾かれることを望んでおられる気持ちを推し量ることが出来ませんでした。弾かれることをお声掛けをしないでいましたら、「私も弾きたいんです」と突然おっしゃられた。本当に申し訳なかったの一言。

外見で勝手な判断をしてしまっていた自分たちをこの時ほど恥ずかしく思ったことはありませんでした。同時に、人にかかわるとはどういうことかの基本を教えていただいた思いがしました。

勿論、ピアノを見事にマスターされました。発表会で弾かれる姿が今もビデオに残っています。30数曲は覚えられたと記憶しています。

その姿から、ミニデイの仲間やスタッフに大きな励ましをいただきました。

こうした人柄だった今枝さんには、ご自身の努力はもとより、ずっと温かく見守って来られたご家族並びに多くの地域の友人たちの輪にその生涯を支えられていたことを忘れてはならないと思います。

8月のミニデイサービス

保育園 8/5、19 事務所 8/3、10、17、24、26、31

精神障害者ホームヘルパー 養成特別研修修了

《受講生から》
知らないことが偏見につながっていた精神障害者の働く場が不足している

去る、7月10日から始まった精神ホームヘルパー特別講座がこの程修了しました。30名の受講生は特別の講習を受けたような満足感があつたようです。

改めて、精神障害についての講座の必要性を感じています。

遅れた福祉のひとつが精神障害者への支援ではないかと考えていたが、その通りだと思われました。

理解されにくい病気だと特別視されたものですが、事実を知らされていなかっただけかも知れません。

統合失調症は特別の病気ではありません。100人に一人、うつ病は20人に一人の病気です。誰でも起こり得る病気だという認識が必要であり、そういう方が普通の暮らしを出来るようにする支援はとても必要な事です。ホームヘルパーとして特別の要件はいりません。基本的に人としてどうかかわるかですが、高齢者介護や知的児童へのかかわりと全く同じことだと理解しました。

そして、ヘルパーの役割は、寄り添う人になることだと学びました。

【ホームヘルパーの役割】

神奈川県立保健福祉大学 太田貞司氏

- ①「いのち」を支え、自ら「くらし」「生き方」を創り出せるように支援する役割
- ②「日常生活」に最も深くかわり「普通の暮らし」を支援する役割
- ③多職種と連携し、自ら「暮らし」「生き方」を創り出せるよう支援する役割



8月の予定

- 1日(日) 会報「まごころ」発行
定例会
勉強会「排泄について」
- 2日(月) 児童デイ
- 3日(火) ミニデイサービス
ミニデイサービス体験学習に中学生参加
- 4日(水) 児童デイ
- 5日(木) ミニデイサービス(静岡)
数知地区福祉センターサービス提供責任者会議
- 6日(金) 児童デイ
- 7日(土) 児童デイ
- 9日(月) 児童デイ
- 10日(火) ミニデイサービス
ミニデイサービス体験学習に中学生参加
- 11日(水) 児童デイ
- 12日(木) サービス提供責任者会議
- 13日(金) 児童デイ
- 14日(土) 児童デイ
- 16日(月) 児童デイ
- 17日(火) ミニデイサービス
- 18日(水) 児童デイ
- 19日(木) ミニデイサービス(静岡)
ミニデイサービス体験学習に中学生参加
サービス提供責任者会議
- 20日(金) 児童デイ
- 21日(土) 児童デイ
- 23日(月) 児童デイ
- 24日(火) ミニデイサービス
- 25日(水) 児童デイ
- 26日(木) ミニデイサービス・定例会
サービス提供責任者会議
- 27日(金) 児童デイ
「移動ネット愛知」勉強会
- 28日(土) 児童デイ
- 30日(月) 児童デイ
- 31日(火) ミニデイサービス

知的障害者・児へのふれあい広場

うさぎのパンさん

休止期間：8月31日まで

- *太極拳 毎週火曜 16時~17時
- *ピアノ教室 第2・4期 9時30分~

6月支援費活動

訪問件数	30件
身体介護	201.5時間
家事援助	95.5時間
移動介護	47.5時間
日常生活支援	6時間
合計	350.5時間

ある外科医の独り言

緩和ケア病棟の閉鎖

高 勝義

5年間続いてきた緩和ケア病棟を、8月31日一杯で閉鎖することとなった。平成11年4月に愛知国際病院とほぼ時を同じくして、愛知県で初めての緩和ケア病棟として華々しくデビューしたのである。

全室無料の個室、13床に対して、常時16名の看護師と1名の医師。一般病床では考えられないような手厚い看護体制である。設立当時は、こんなにもすばらしい病棟なのだから、入院するには順番待ちであろうと期待をしたのだが、あにはからんや、13床のベッドが全て埋まるのは珍しいことであつた。経営陣としては期待はずれではあつたが、一般病棟では行ふことが出来ない癌末期の患者さんやその家族の方々のケアに関しては、誠に満足できるものであつた。

ある病院で、癌で苦しんでいるにもかかわらず、もうやる事が無いから出て行けと言われ、困り果てて当院の緩和ケアを訪れ、入院し、そして本人は勿論家族も安心して心安らかに旅立った人が如何に多かったことだろうか。お金には換えられない病院としての使命感をこれほど感じた事は無かつた。年間150名前後の方々が緩和ケア病棟で亡くなつていったのである。その緩和ケア病棟が今終わろうとしている。とある事情で後任医師が得られなかつたのである。

緩和ケア病棟は、亡くなっていく人を看取る病棟である。病気が良くなり元気で退院することはない。待っているのは悲嘆と苦しみである。

したがって、緩和ケア病棟では苦痛をとるための立派な医療も必要であるが、人の苦しみ、悲しみを理解し、聞き入ることが出来る技量も必要なのである。緩和ケア病棟を維持しようとするれば、どんな医師でも名前だけを付けておけば、法律上では全く問題ないし、維持することは可能である。しかし、もし人間として未完成の医師が、死を迎えている患者さんや悲嘆に悲しむ家族と接したとしよう。下手をすると怒りや不安を与えるのみで、何のための緩和ケアかといいたくなるようなことが生じうるのである。緩和ケア病棟は癌の患者さんを捨てる場所ではない。

肉体的苦しみを軽減し、さらには精神的苦しみを除き、安らかな気持ちで旅立つことが出来るようにすること。そして、その後の家族のケアを含めて行ふ所である。当院は後任の良い医師を獲得することが出来なかつた。良い医療が期待できないなら、その病棟を閉鎖した方がよいと選択したことが間違いなのだろうか。多くの困っている患者さんのために、偽りの病棟でも継続していった方がよいのだろうか。答えは正しいと信じているのである。(山下病院 院長)

6月有償活動

6月介護保険活動	
利用件数	56件
生活支援	625.5時間
身体介護	621.5時間
合計	1247時間

在宅活動件数	17件
在宅活動人数	32人
ミニデイサービス利用者	57人
移送サービス利用者	238時間
ふれあい広場利用回数	3回
副合い活動時間	428.5時間

6月会員登録	
協力会員	51人
利用会員	60人
賛助会員	126人
合計	237人

9月の定例会

場所「まごころふれあい広場」9:30~12:30

定例会：9月6日(日)

勉強会：「移送について」

講師：寺岡亮・鎌山和敏

